

ビデオをはじめニューメディアを活用した新たな表現法の模索と文化共有

芸術地域デザイン学部

21121130 塚本マーク達美

私は 2023 年 8 月から 2024 年 7 月までの期間リトアニアはヴィタウタスマグヌス大学（以降 VDU）の芸術学部(Faculty of Arts)に留学生として籍を置き、表題にもあるようにビデオをはじめ写真やグラフィックデザイン、アニメーションや音楽など「ニューメディア」を学んできた。ニューメディアの定義は一意に定まっているわけではないがここでは 1830 年ごろダゲレオタイプによる写真の登場以降の媒体や支持体が複雑な機能を備えたことに表現の幅や制作速度を加速させたようなメディアのことを指すものだと思ってもらいたい。本報告書ではこのようなニューメディアを使ったさまざまな表現の模索と VDU という非常にグローバルで多様な学生のいる環境で私がどのようなことを学んだか、どのようなカリキュラムだったかなどを佐賀大学と比較しそこで得た気づきや今後の展望などをまとめる。

はじめに、VDU で受けた授業およびカリキュラムだが、芸術学部には New Media コースと Music Production コースがあり私は主にそれらのコースからの授業を履修し、合わせて情報学部(Faculty of Informatics)で開講されているメディア関係の授業か

ら技術的な内容を抑える授業を履修した。VDU は総合大学なためさまざまな内容を学ぶことのできる環境でありプログラミングなど表現の幅を広げる上で学習したいと考えていた内容挑戦でき非常にためになった、この他の教養科目も非常に教務深いものが多かったがそれらについては割愛しニューメディアに関する授業について詳しく述べる。具体的には Media Art、Basics of Audiovisual Art、Audiovisual Process、Computer Graphics、Video Art、Basics of Computer Graphics、Creative Multimedia、Fundamentals of Visual Communication の7つの授業である。

授業の内容は Video Art や Audiovisual Process などよりアートを重視し、それぞれのメディアが持つ要素を論理的に解釈し、意図的にそれらの要素のバランスに変化を生じさせることによる今までにない体験を生み出すいわゆる現代アートのと言えるものを模索する授業と、Basics of Audiovisual Art や Creative Multimedia のようなより技術的なことに着目し商業的なメディアでの表現の仕方、ツールの基礎から応用までを学習するものの2種類に分けられるだろう。私の所感だが VDU は佐賀大学に比べツールの使い方や商業デザインのあり方など社会に出た際に必要になるスキルを比較的重視しているような感覚があり、佐賀大学にいた頃以上に課題や授業を通して作品作りの数をこなすことになった。これらの課題はグループで作業することも少なく特別新しい内容だったわけではないが私生活で制作に割く時間が少なかった身としてはパソコンに向かう習慣が付き非常に良い内容だった。逆により芸術に特化した授業に

関してはグループワークなども多く、どのプロジェクトでも多様な国籍の学生が参加しており、各々の生活してきた環境に由来する感覚の違いや言葉の持つ意味を擦りあわせなが制作する機会に恵まれた。これに関しては日本ではなかなか得ることのできない経験が多く、非常に有意義であった。

また、VDU は佐賀大学特に地域デザインコースに比べ実習の内容が充実しており、座学を重点的に大学で学び実践は各個人で取り組むスタイルではなく、座学と同等の時間を実技に割りクラス内で学友にアイデアを相談したり、技術的なアドバイスを教授からもらったりできる環境が整っており、この時間を通して英語によるコミュニケーション能力を培い、さまざまな文化交流ができたように思う。特に Audiovisual Process という音楽の授業では本当に多様な国籍の学生と交流する機会が多く、音楽は特に国によってスタイルが出る分野なのではないかと交流を通して感じた。

最後に芸術学部の授業ではなかったが教授に勧められ後期に履修した Creative Multimedia という授業と Fundamentals of Visual Communication が非常に興味深かったことを追記する。これらは表現そのものを学わけではなく、今後どのような表現が可能になるかを技術ベースで学ぶことをコンセプトにさまざまな新技術を学ぶものであり、例えば現在ホットなトピックである生成 AI による画像生成、映像生成、音楽や文章などの作り方や、VA や AR、EEG ヘッドセットを利用した脳波入力など未だ普及率は低いものや興味深い技術ではあるが利用法が十分に検討されていなテクノロジー

一を毎週取り扱い学生たちにそれらの利用法を考えることを促すような内容であり、技術ベースでの新たな表現方法を模索する上で非常に有意義であった。VRなどは今後の社会において新たなコミュニティ形成のツールとしての可能性などもあり、ますます注目されることになる重要なトピックであり今後も取り組みたい内容だと私は考えるようになった。おそらく佐賀大学にも一部類似するような設備はありアクセスできるのだが、触れるきかいに恵まれなければ使おうという発想になることもなかったように思う。佐賀大学に比べ実習を重視しているVDUだからこそ学べたことも多く、今後の大学生活を変えるマインドセットや表現領域を獲得できたのは新しい環境で今までとは大きく異なる授業のスタイルやカリキュラムの中でさまざまな気づきを得られたからだと思う。

アートやデザインの多くは言語以外の色や音や形などを利用して表現するものであり文学などに比べ海外で英語を学習する必要性は低く英語の学習はあくまで海外でのプロジェクトなどでコミュニケーションを円滑にするためのものだと考えていたところが留学前にはあったが、留学後は言語によってリズムの微妙な違いや表現の違いを感じるころなどもあり、多様な文化だけではなく別の言語で思考するからこそたどり着ける表現も多いと思うところがあり、想像していた以上にみのりの多い留学になった。VDUが留学生を多く受け入れさまざまな文化を持つ学生と交流する機会が多かったこともさまざまな表現を学ぶ上では非常に有意義であり、今後の表現活動や作品

に多様性を反映することができ、多文化共生への一步に貢献できるのではないかと考
える。



国際交流イベント



授業で美術館に訪れた際の画像



実習中の風景



フランス、リヨンの光の祭典